

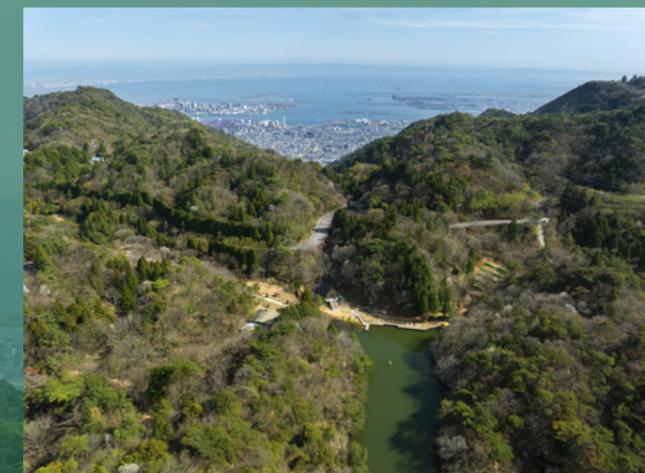
とらとら
すみか

神戸市立自然の家
Kobe Nature House

屋内は無塗装
屋外はウレタンクリア塗装

兵庫県産ヒノキ間伐材の木毛セメント板

六甲山間伐材のヒノキのカフェテーブル



神戸市立自然の家
カフェ&レストハウス「シェールミエール」
「少年自然の家」を
すべての人にひらく
リニューアル事業

神戸市の六甲山系・摩耶山上に位置する「神戸市立自然の家」のリニューアル事業です。

「神戸市立自然の家」は、1973年（昭和48年）の開設以来、市内学校・青少年団体の林間学校や課外活動など、野外体験施設として利用されてきました。しかし、施設の老朽化や、アウトドア体験の需要の高まりを受け、神戸市は2024年度より一般にも広く利用されるよう運営方針を転換し、施設機能の拡充を図りました。

私たちは、市が発注したDBO事業の設計担当として、施設全体に及ぶ大規模リニューアルに携わりました。

今回は事業のうち「地域材利活用」の取り組みに焦点を当て、カフェを併設する湖畔の休憩所の新築への地域材利活用と、キャンプ場の拡大に伴う現場伐採樹木の利活用について記載します。

主な取り組みは下記の3点です。

1. 兵庫県産ヒノキ間伐材を活用した天井
2. 六甲山材のカフェテーブルとカウンター
3. 国立公園内における現場伐採木材の再活用

森と人とのつながり発信する山上の休憩所

六甲山の環境維持と地域材活用の必要性

新築の休憩所は、六甲山系の登山客の目的地の一つである「穂高湖」に面しており、併設のカフェは平日でも多くの市民に利用されます。200㎡ほどの小さな公共施設ですが、森に囲まれた湖畔でリニューアルを印象づける「象徴性」と「周辺環境との調和」を大切に、訪れた方に安らぎを与える木質の空間を構想しました。

六甲山は、明治時代に防災のために植林され、100年以上の年月を経て成長したのが現在の森の姿です。神戸の都市部から至近の美しい自然環境ですが、急峻な地形のため、継続的な伐採整備をしなければ土砂災害による実生活への影響や景観悪化の懸念も高まります。

休憩所の利用者は、ケーブルカーや麓からのハイキングなど、六甲の自然林に触れながら本施設に至ります。当たり前のように体験できる環境も、森と人との関わり続ける地道な活動によって支えられていることを、この山上のカフェでのひとときを通して、さりげなく伝えたいと考えました。

六甲山材と兵庫県産材の内装・家具利用

そこで、地元の木質建材プラットフォームとの協働により、六甲山の環境維持のために生じた間伐材を、新築するカフェの家具に活用することを計画しました。

カウンターの面材はコナラ、客席テーブルの天板はヒノキで、いずれも六甲山の間伐材です。利用者が自然と手に触れる家具に込められたストーリーが、大きな開口部に切り取られた風景を眺めながら弾む会話の一幕になり、美しい六甲山が次世代へ引き継がれていく一助になればと考えています。

また、天井と軒天井には、全面に「兵庫県のヒノキ間伐材を原料とする木毛セメント板」を採用しました。結婚式やコンサートイベントの会場としても使われる想定施設において、高い吸音性能と内装の木質化を両立する建材として選択しています。化学物質ゼロで、ヒノキによる消臭効果、高い調湿性能を持ち、美しい景観と合わせて利用者に健やかな空間を提供します。



伐採樹木の敷地内活用

本事業では、一般利用者のアウトドア需要に対応するためにキャンプサイトの拡張が計画されており、工事に伴って敷地内の樹木伐採が伴います。敷地は全域が瀬戸内海国立公園の区域内に指定されているため、伐採は最小限とすることが求められました。

伐採した樹木は、幹、根・枝葉に大別して適切に処分したほか、工事期間中に加工して、子どもたちの自然学校の活動場所などに使われる広場に設けたステージの材料として再生しました。



左：整備前／右：整備後

